

International Student Center News



金沢大学

留学生センターニュース



*vol. 12
November 2008*



いしかわ
プリンス頓 in 石川 (PII) プログラム 2008

Volunteer Tutors' Association of Kanazawa University
(VOTAK)



ジャパンテント 2008
にほんぶどうたいけん じょうどう
「日本武道体験・杖道」

ねん
2008 年ランチョンセミナー『国際交流月間』
こくさいこうりゅうげっかん
りゅうがくせい にほんじんがくせい とうろんかい
留学生と日本人学生の討論会



にっけんせい の とけんしゅう わじまたいさいさんか
日研生能登研修 輪島大祭参加



ぜんがくりゅうがくせいたいしゅう
全学留学生対象
こしゅうかい
スキー講習会



留学生30万人計画に乗るために

きたうら まさる りゅうがくせい ちよう
北浦 勝 (留学生センター長)

1983年にスタートした「留学生10万人計画」が現在12万人に達している。金沢大学でも一昔前に比べるとはるかに多くの留学生がキャンパスを闊歩している。今年になって国はさらに「留学生30万人計画」を動かそうとしている。20年後(2025年頃)までに30万人を、という計画である。言うまでもなく金沢大学をはじめ多くの大学は、これまでから国際的に通用する教育研究をさらに前進させるために、留学生の数と日本人学生の海外派遣をより一層増やすことを考えている。また日本の18歳人口の数と質の減少を留学生で補いたいという大学もある。そこで有力な大学は、私費外国人留学生の大学院生に独自の奨学金を与えるなど、優秀な学生獲得に力を注いでいる。またすべての授業を英語でするなど、カリキュラムに工夫を凝らしているところもある。

30万人という人数は日本の全学生数の10%から出た数字らしいが、金沢大学がこの計画に乗るとなると、金大には1万人の学生がいるから留学生は1,000人となる。現在は330人程度であるから、3倍の留学生を抱えることになる。しかし金大が今以上の努力をしなくても、自動的に1,000人に達することはないと思う。それには全教職員がこの重要性を認識し、積極的に協力することがまずもって大切である。

留学生はどのような理由で金沢大学へ来たのであろうか。良い教育が受けられるから。有名な教授が在籍しているから。一流の研究者が多いから。奨学金が充実しているから。短期の留学生の場合、単位互換ができ、4年間で卒業できるから。国立大学の授業料は安いから。協定大学の授業料は無料であるから。宿舍費を含めて、生活費が比較的安いから。国際学生寮があるから。学生の本分を守りながら、最低限の生活のできる安心なアルバイトがあるから。就職の面倒を見てくれるから。静かで安心できるまちだから。金沢には日本の伝統文化が未だに色濃く残り、かつ外国人をもてなす心の人が多いから。日本語や日本文化の勉強をしている人にとって、勉強に最適なまちだから。ちょっと郊外に足を延ばせば、というよりは大学そのものが自然のまっただ中の緑に囲まれた環境にあるから。先輩に勧められたから。本当は違う大学に行きたかったが、何かの理由でまわされたから。予め良さを知らずに来た人も、何かの理由でまわされて来た人も金沢大学生活に満足して帰って欲しい。再び来て欲しいし、他の人に良さを宣伝して欲しい。

金沢大学には先に掲げた良い点がほんとうにたくさんあるだろうか。少しあるだけではダメで、たくさんないと1,000人はほど遠い。彼らの期待を裏切ることなく、さらに良い大学を目指す。現地で説明する。マスコミを通じてP.R.する。来て欲しい国の言語、あるいは英語のホームページを設ける。効果があると思ったことには何にでも挑戦する。やるしかない。

国際交流室の新設！

金沢大学で学ぶ留学生数は351名に上ります(40カ国・地域、2008年10月1日現在)。
留学生と交流したいと思っている日本人学生も大勢いるのではないかと思います。留学生も、日本留学の大きな目的として日本人学生の友人を作りたいという希望を挙げています。現在でも留学生センターが開催している多くの交流活動、共学の授業にたくさんの日本人学生に参加してもらっています。

しかし、より学生主体の交流を育む常設の場がキャンパス内に必要でした。この度、共通教育機構のご理解とご協力により、念願が叶い、以下の通りに国際交流室を新設することになりました。

場所：総合教育2号館 464号室

設置日：2009年1月5日(月)

利用対象：国際交流に関心を持っている金沢大学で学ぶ全ての学生(日本人学生、留学生)

利用目的：相互学習活動・学び合いの場、語学などの交換レッスン、テーマを設けたディスカッション、文化比較、学生の企画による交流活動、意見交換・情報交換の場(例：留学生に対する生活情報の提供、日本人学生派遣留学希望者に対する協定校情報の提供など)

この部屋を活用し、世界を知り、世界観を広げ、多くの友人を作ってください。日本人学生と留学生がお互いに知的刺激を与え合い、自らを高め合える場を作っていきたいと思っています。

留学生自習室 リニューアルオープン！

共通教育を受ける1、2年生の皆さんへ、
共通教育を受ける学部1、2年生の留学生が空いている時間や授業後など、自主学習やチューターとの学習活動を行う場として設置されている留学生控え室は

総合教育1号館2階204号室 → 総合教育2号館473号室

に移転しました。自主学習を促す雰囲気作りにも工夫を凝らし、

2009年1月5日(月)から

新しく整備し、オープンしますので、フルに活用し、たくさん学びながら、楽しいキャンパスライフを送ってください。

なお、上記2室のファニーチャーターなどの整備は

保健管理センター学生支援 GP

の一環として行われることになりました。保健管理センターの皆さん、心より感謝申し上げます。

問い合わせ：留学生センター パリハワダナ ルチラ

TEL：076-264-5798, E-mail：ruchira@kenroku.kanazawa-u.ac.jp

相談指導部門

金沢大学での留学生活を更に豊かにするためのアドバイス

新しく金沢大学で学ぶことになった留学生のみなさんへ

ようこそ、私たちの大学へ！

相談・指導部門では、充実した留学生活を送る事ができるように、様々な相談やアドバイスを行うとともに、キャンパス内外の人々との交流活動を計画しています。キャンパスには、留学生の相談・アドバイスを担当する留学生センターの教員の他に、人間社会学域（経済学類）や理工学域の留学生専門教育教員がいます。しかし、留学生にとって、最も身近にいる頼れる相手は、「チューター」です。

「チューター」は、全ての留学生に付けられるものではありません。日本の大学での学習の方法や内容、また日本の大学の習慣に不慣れである入学直後の一定の期間だけ、「チューター」は一生懸命に留学生をサポートします。（金沢生活ガイドブック 13頁参照）出身国では元気で積極的な留学生も、日本にやってくると、とても遠慮がちになります。「こんなことをチューターに聞いてもいいのだろうか」、「何度も、チューターに連絡するのは、迷惑ではないか」などと思っている留学生たちは少なくありません。

でも、心配することはありません。

「チューター」になる学生たちには、「チューター・オリエンテーション」で、「自分の気持ちをはっきりと留学生に伝えること」そして「チューターの方から、留学生に対してたびたび連絡をとること」を言われています。

「チューターがいたから、日本のことが良くわかった」、「チューターの家で招待されたり、チューターが私の家（海外）まで遊びに来た」と、嬉しそうに語る留学生たちの報告もありました。

新入生の留学生のみなさんも、「チューター」との良い関係ができ、勉強以外の留学生活も楽しむことが出来たら良いですね。

これから、しばらくすると寒い雪の季節を迎えます。12月には県内の日本人学生や地域の方々も参加する「いしかわ金沢学 冬コース」がありますので、是非参加して、金沢の冬を体験してください。（詳細は留学生センター HP 参照）

「アジア人財資金構想 高度専門留学生育成事業」

「大学院自然科学研究科博士前期課程・ 高度専門（技術・ビジネス）留学生特別コース」

第1期生と第2期生国内採用組のビジネス日本語教育報告

平成19年度に始まった「アジア人財資金構想」による大学院自然科学研究科博士前期課程・高度専門（技術・ビジネス）留学生特別コースは、今年度（平成20年度）で2年目を迎えます。

昨年入学した第1期生7名は2008年の春期休暇期間に（財）石川県国際交流協会日本語・日本文化研修センターで第1回目のビジネス日本語教育を受講しました。1日4時間7週間に及ぶ授業はかなりきつかったようですが、第1期生たちは精力的に授業に参加し課題をこなしてきました（上段写真）。



第1回ビジネス日本語教育場面（2008年3月）



第2回ビジネス日本語教育場面（2008年8月）



そして、今年度は第2期生を迎えました。4月に国内採用で入学した2名の第2期学生（中国人と韓国人）が加わり、2008年夏期休暇期間中に第1期生とともに1日4時間5週間の第2回目のビジネス日本語教育を受けました。今回のビジネス日本語教育はアジア経済を考慮したマーケティングの話までが出てきたため、内容的に大変難しかったです。しかし、9名の学生たちは春期同様精力的に課題に取り組んでいました（前ページ下段写真）。

第2期海外採用学生15名の予備教育開始

2008年10月からはさらに海外からの直接採用の15名が来日しました（下の写真）。内訳は、中国から7名、タイから6名、ベトナムから2名で、10月からの半年間は大学院自然科学研究科の研究生として、留学生センターで日本語教育を中心とした予備教育を行います。15名の日本語力は初級の真ん中程度から中級前半程度までとかなりの開きがありますが、来年2009年の夏期休暇期間には第1期生たち同様ビジネス日本語教育の第1回目を受講しなければなりません。留学生センターでは、彼らの予備教育及び在校生の日本語ブラッシュアップ教育、そしていしかわ金沢学を通じた日本文化教育に今年も全力で取り組んでいきます。



第2期海外受入学生入校式（2008年10月1日）



第2期海外受入学生歓迎会（2008年10月7日）

（高度専門（技術・ビジネス）留学生特別コース企画委員・日本語教育部門専門プログラム開発リーダー 太田 亨）

文化体験学習 「いしかわ金沢学」 (Kanazawa Studies in Ishikawa)

○夏コース (Summer Course)

毎年、一般市民や金沢大学生、留学生を対象に開催してきた夏コースを平成19年度はいしかわシティカレッジで金沢大学が開講する「いしかわ金沢学」の一環として平成19年6月30日から7月1日の一泊二日で実施しました。

今回体験プログラムに取り上げたのはいしかわの伝統産業である山中漆器と加賀友禅でした。工程を見学し説明を受けた後、山中漆器では漆器木地作りの轆轤回しを体験し、山中漆器の特徴である挽き物技術の難しさと美しさを学びました。また、加賀友禅では自らが考えたデザインを加賀友禅の工程で染め上げ、緻密な作業を要する加賀友禅への理解を深めました。



年齢層は幅広く、国籍も様々な参加者がともに日本の伝統を学んだ体験では大学の中だけで行われる授業と違い、生きた異文化交流ができた参加者からは高い満足度を得られました。



○秋コース (Autumn Course)

石川県が11月1日の「教育の日」にふさわしい取り組みを集中的に展開する期間として実施している「教育ウィーク」に共催する事業として、平成19年11月2日に「いしかわ金沢学」秋コースを開催しました。

金沢が全国シェア98%を誇る金箔をテーマにしたこの秋コースには約10名の留学生らが参加し、金沢市立安江金箔工芸館にて箔打ちの実演を含めた工程の説明を受け、金箔が金沢に息づ

いた背景などについても学びました。また、金箔の装飾技法である「摺箔」の体験を通して参加者らは金箔の1万分の1mmという薄さを実感し、個性豊かな作品を作り上げました。



○冬コース (Winter Course)

平成19年冬コースはいしかわの食をテーマに12月1日と2日の一泊二日の日程で開催されました。

一日目はまず、金沢大学創立五十周年記念館「角間の里」にて市民ボランティアグループ「里山メイト」の協力を得て杵と白を使った昔ながらの餅つきを体験し、日本の米文化を学びました。その後、料理を盛る器という視点から重要無形文化財に認定されている高級漆器、「輪島塗」を取り上げ、輪島塗のプレートに思い思いのデザインで沈金を施しました。輪島塗沈金業組合の方の「輪島塗は西洋文化に重要な影響を与えている」などの興味深い講義に参加者はいしかわに残る伝統文化の奥深さを感じた様子でした。二日目は石川の正月や祝い事の際に作られる料理を実際に調理し、食することで地域の風土や食文化に触れました。

日本に来て地域の方と触れ合う機会の少ない留学生にとって、この冬コースは貴重な交流となりました。



こくさいきょういっくけんきゅうぶもん
国際教育研究部門

「TOEFL-iBT Seminar 2008」

留学生のみなさん、金沢大学によろこそいらっしやいました。

金沢大学留学生センターの国際教育交流部門の大切な目的は、本学キャンパスによりいっその「国際化」を実現させるための支援をすることにあります。このため、本部門では、学内の関係部局だけではなく、交流協定校とも連携しながら、さまざまなイベントを企画、実施しています。例えば、今年度も共通教育科目「大学社会・生活論」での「留学と国際交流」の講義を留学生センター教員が全員で担当したのですが、本部門ではそこで留学情報の提供をしました。また、附属小学校の英語の授業への留学生派遣も行っています。

今年度の『留学生センターニュース』では、そのような試みの中から、昨年度と同様に、TOEFL-iBT セミナーのご報告をしようと思えます。

TOEFL-iBT セミナー2008

TOEFL (Test of English as a Foreign Language) とは、海外の大学への留学を希望する学生が受験する、大変難しい英語力判定試験です。そして学生は、この試験でよい点数を取らない限り、留学の夢がかなうことはありません。

そこで英語を使用する交流協定校への派遣留学を計画している本学学生のために、2007年度に引き続き、今年度も、8月25日(月)から29日(金)の五日間、本学交流協定校の一つであるタフツ大学 (Tufts University、アメリカ合衆国マサチューセッツ州メドフォード市) より TOEFL 教授法を専門とする先生をお招きし、TOEFL 受験のための「超」集中セミナーを実施しました。

お招きしたのは、ゴージャ・ヘルムリンガー先生 (Ms. Gosia Helmlinger) です。ヘルムリンガー先生は、タフツ大学の夏期英語研修コースで TOEFL 受験クラスを専門に担当していらっしゃる、その道のスペシャリストです。また先生は、同大学にて、英語を母語としない大学院生を対象とする英語補修コースも担当していらっしゃいます。

このセミナーには、「飛び入り学生」も含めると、18名の学生が参加しました。大多数が、本学在学中に派遣留学することを計画している学生たちです。(派遣留学がすでに決定している学生も3名いました。) 私も授業その他のほとんどのアクティビティに参加したのですが、昨年度のセミナー時以上に、学生たちの底力に驚き、感激した次第です。

まず、18名の中には、タフツ大学その他の3-4週間ほどの夏期英語研修に参加したことがある学生たちが含まれていたのですが、その学生たちの目を見張るような英語の上達ぶりです。

グループに分かれて互いに教えあうルーティンでの、まるで先生のような口ぶりで英語を話すFさん、ヘルムリンガー先生の質問に、先生の表現をお借りすると「まるでアメリカの大学の学部生のような」話し方で答えるHくん、みんなの前で作文を読み上げたとき、先生も私も彼のハートと表現力に感動し、涙をこらえなければならなかったNくん、などなど・・・
夏期英語研修の絶大な効果を、改めて感じさせられました。

また、5日間の短いセミナーでしたが、夏期英語研修に参加したことがない学生も、最終日には、セミナー開始時に比べ、明らかに様子が違っていました。目を輝かせ、胸を張って英語で発言できるようになった学生たちの姿に、ヘルムリンガー先生も大変お喜びでした。

先生がおっしゃるには、「今回のTOEFL-iBTセミナーの参加者ほどすばらしい学生を担当したことはない」そうです。また、「この人たちは必ず留学の夢をかなえるでしょう」とも。(ちなみに、先生が学生たちを「あなたたちは、dream team ですね」とほめてくださった時、「dream team」というところを、「drink team」と聞いてしまい、考え込んでいた学生もいました。)

今年度のTOEFL-iBTセミナーも、昨年度と同じく大成功でした。なによりも、参加した学生の派遣留学へのモチベーションが上がったこと、彼らが「TOEFL 打倒」への道を一人で歩んでいくための自信を身につけたこと、この二つが大きな成果だと思っています。このセミナー実現のため全面的にサポートしてくれた本学学務課、そして、タフツ大学サマースクールに心より感謝しています。

国際教育交流部門では、TOEFL-iBTセミナーに加えて、今年度中に、「アメリカの大学体験授業」(アメリカで教えている現役の先生を招き、本学学生を対象に、アメリカでの授業を‘そっくりそのまま’再現してもらい授業、12月18日(木)の予定)、「派遣留学報告会」(派遣留学を終え、本学に戻った学生が、留学中の体験を語る会)などを計画しています。この原稿を読んでくださっている留学生のみなさんも参加できますので、どうか楽しみにしててください。

国際教育交流部門 齊木 麻利子



ヘルムリンガー先生と学生たち

「プリンス頓 in 石川(PII)プログラム2008」

金沢大学留学生センターは、6月18日に文学部と部局間協定を結んでいるプリンス頓大学等の学生と、本学学生との交流会を実施しました。参加したのは県が実施する「短期間石川県で学ぶ日本留学プログラム」(PII)で来県したプリンス頓、ハーバード、コロンビア、イエール等の大学生43名。その留学生



一人一人に、本学の学生がペアを組みエスコート役を務めました。

創立五十周年記念館「角間の里」で本学の紹介を兼ねたクイズを行い、本学の敷地面積や歴史などについての問題では、留学生だけでなく本学学生も驚いたという感想が聞かれるなど和やかな雰囲気につつまれました。



その後、本学の敷地内に生えていた竹に日本の年中行事である七夕の飾りつけをして交流を深めました。「日本語がうまくなれますように」「これからも友達になれますように」など学生らしい願いが書かれた短冊で飾られた竹は7月7日の七夕まで中央図書館に飾られ、図書館利用者の目を楽しませました。

日韓共同理工系学部留学生コース (通称：日韓プログラム)

「第9期生について」

平成20年度の第9期は、さくねん だい き どうよう めい うけい 昨年の第8期同様1名の受入れで、さくねん おな り こうがくいきすうぶつ か がくるい 昨年と同じ理工学域数物科学類への配置です。はいち さくねん すうがくせんこう きぼう それでも、昨年は数学専攻希望であったのに対し、たい ことし キム ジョンミンくん テジョンがいこく 今年の金鍾明君（大田外国語高校出身）はぶつり がくせんこう きぼう 物理学専攻希望です。

写真（左）は2008年3月に韓国側の予備教育が始まってまもなく、よびきょういくじっし きかん 予備教育実施機関である慶熙大学校国際教育院を訪問したときの写真です。キョンヒだいがっこうこくさいきょういくいん ほうもん 8期生を迎えるために、いちじきこく 一時帰国していた本学の日韓プログラム第8期生・しゃん 權容載君が訪ねてきてくれました。

また、二人は2008年9月30日（土）に行われた第10期生対象の留学推進フェアのときも手伝いにきてくれました（写真、右）。



9期生・キム ジョンミンくん みぎがわ 金鍾明君（右側）と先輩の第8期生・せんぱい だい き せい 權容載君（左側）



第10期留学推進フェアにて（左が金君、右が權君）

「第9期生対象の韓国側予備教育への教育参画」

本年2008年は、私が代表を務める科学研究費補助金による日韓プログラムの通年予備教育カリキュラム開発研究（きばんけんきゅう 基盤研究 B、かだいばんごう 課題番号19320076）のいっかん 一環として、だい き せいたいしやう 第9期生対象の韓国における予備教育の最終段階（2008年8月12～14日）に教育参画をしてきました。10月には日本全国に分かれ分かれになっていく第9期生96名の一部のクラスだけでしたが、かれ 彼らの半年間に及ぶ日本語教育の成果と日本語力の伸びを実感することができました。



担当：太田 亨（日韓プログラム担当）

かな ざわ だいがく たん きりゅうがく 金沢大学短期留学プログラム (KUSEP)

「来てよかった～」今はこういう気持ちです



トウ サン サン
董 珊 珊

ちゅうごく ぺ きんこうぎょうだいがく
中国、北京工業大学

わたしは2007～2008年の KUSEP プログラムに参加した32名の留学生のうちの一です。一年間、世界中から来た留学生の友達と一緒に国際交流会館に住み、授業を受けたり、旅行に行ったりしてきました。

KUSEP の学生にとって勉強は負担にはなりません。逆に日本語の授業に通っているうちに、文法や漢字の勉強が楽しいというようになった人が何人もいました。「発表をもうちょっとやりたい」とか、「**先生が大好きだ」とか、「漢字の勉強が楽しい」とか、皆それぞれ自分なりの理由を見つけたのです。私はわりと日本語のできる方でしたから、周りの人からよく日本語の勉強について質問され、答えたりしていました。そうしているうちに、友達とも仲よくなることができ、さまざまな文化や個人によって考え方が違うことに気づくこともできました。

学校での勉強はもちろん、皆と同じく、文化体験もたくさんやりました。文化体験の授業は一番の人気です。そのおかげで、生け花、和紙、漆など日本伝統文化に触れる大切なチャンスを得ました。そのほかに、毎週木曜日に、留学センターが留学生のために開いたお茶教室が行われます。わたしはこの一年間ずっと茶道の勉強をしていました。茶道を通して、日本の文化も分かり、友達もできてよかったと思います。日本人でもあまりできない経験でしたから、いつも日本人の友達に羨しがられていました。最後のお茶教室の時、皆そろって先生に私達が自分で作ったアルバムをプレゼントしました。先生は大変喜んでくださいました。

生活の面においては親切な先生方がいろいろ面倒を見てくださいました。病気になった時、先生が自分の車で病院まで連れて行ってくださったり、お祭りやコンサートのあるときチラスなどで教えたりしてくださいました。「自分の国ではあり得ないことだけど、日本ではこんなにやさしくしてもらって感動した」という留学生もいました。

チューターという制度はとても便利だと思います。KUSEP の留学生一人一人に日本人のチューターさんが一人ついて、悩みや困ったことがあるとき相談に乗り、手伝ってくれます。わたしはチューターととても仲がよくて、いつもいっしょにご飯を食べたり、温泉に行ったり、映画を見たりしていました。ほんとうに彼女のおかげで日本の生活を一層たのしむことができたのです。

日本に来るためにいろいろ大変でしたけれど、来て本当によかったです。お世話になった先生方に、それに一緒にこの金沢大学で一年間生活を共にした友達に、心から「ありがとうございます」と言いたいと思います。



忘れられないほど美しかった時



Hauschild, Paul

ドイツ、ジューゲン大学

びっくりしたのは、日本に来てからもう10ヵ月にたってしまったという
ことです。振り返ってみると時間があっという間に過ぎました。留
生として日本にいる時の KUSEP についての感想文を述べる前に1つ言

わせてください。一言でいうとこの一年間は、私にとって本当にすばらしかったです。なぜなら日本での生活は私に深い印象を与え、たくさんの新しい考え方も出会ったからです。

日本に来た最初の日はまだはっきり覚えてます。「こんにちは」や「ありがとう」や「パウルです」以外の日本語はほとんど分からない状態でここに来ました。大阪空港から金沢までの旅は夢を見ているようでした。私にとって全部のことはまるで違って、環境も完全に変わったのでとても混乱しました。その時私は自分が日本にいることを信じられませんでした。最初の頃毎日何か新しいことがあり、圧倒されて事の成り行きに身を任せるしかありませんでした。しかし時間が経つにつれて私は日本の生活に慣れ、日を追うごとにますます日本のことが好きになりました。

最初、日本語が全然通じなかったので、私は是非できるだけ速く日本語が喋れるようになりたいと思いました。それで日本語の AA という集中訓練コースを受けました。毎日8時45分から12時まで授業があったし、宿題もたくさんさせられたし、たまに本当に大変だったけれど、やりがいのある苦勞でした。このコースに参加した人のだれもがこの6ヵ月の間、とりわけ先生のおかげで急速の進歩を遂げました。そして分かれば分かるほど言語を勉強することが楽しくなりました。もちろん日本語で話すことは難しく日本語がペラペラになるのはまだ遠い先の話ですが、皆は自分の言いたいことを言葉で表せるようになりました。AA コースを受けて本当によかったです。

日本にいる間にきれいな日本の名所をたくさん見ました。沖縄の真っ青な海や池に映っている美しい金閣寺や渋谷の交差点を渡っている何千人もの人間など、どこでも楽しい時間も過ごせました。その上、何よりも良かったのは一生涯の友人を見つけることができたことです。日本にいる間ずっと私は地元の人々に返しても返しきれないほどのたくさんのものをもらったような気がします。いろいろありがとうございました。

この前友人と花火を見に行った時、一番仲がいい友人の一人が「パウル、日本人ってなんで花火がそんなに好きなのか知っている？」と私に聞きました。「花火は一瞬だけしか美しくないから。散る桜と一緒にね」。するとその言葉は私のあっという間に過ぎた日本での生活を思い出させました。私にとってこの一年間は一瞬のように過ぎたのに忘れられないほど美しかったです。まとめると日本に来る機会を持てたのはとても幸せです。

日本を恋しくなるに違いないですが、私にとって今のさよならが、最後ではないです。桜の花が毎年新たに咲くようにまた日本に来ますので。

シラーもすでに言ったように「見放さなければ、失うということもありません」

日本語・日本文化研修プログラム

日本文学作品の舞台散策

京大日研生との合同研修

日本語・日本文化研修生(以下において「日研生」と略して記す)を受け入れる大学が全国に56校もあり、それぞれの日研生が自分で選んだ大学で日本語及び日本文化の研修に励みます。各大学は地域の特徴などを生かしながら、日研生に特色のある教育プログラムを提供しようと工夫を凝らしています。

地域教育リソースの共有により、日研生教育の更なる充実を図ることを目的に、金沢大学では2005年から修了研究発表会を大阪大学(旧大阪外国語大学)と合同で行ったり、金沢及び大阪で同大学との合同の現地文化研修合宿を行ったりなどしてきました。その一環として2008年2月14日に京都大学国際交流センターとの合同企画として、京都大学と金沢大学の日研生の合同研修を実施しました。



野々宮神社にて

この研修は、京都大学の日研生と金沢大学の日研生が合同で日本文学作品の作品舞台を散策し、対象作品の環境的、地理的、歴史的・時代的背景について探究することを目的としたものです。更に、京都の地域文学会のメンバーの参加を得て、共に時間・空間を超えた作家との文学的感性の共有を試みました。

まず、京都大学で対面式を行い、日研生と地域の方がお互いに知り合う時間を取りました。その後、2台のバスに分かれ、作品舞台に出かけて行きました。

川端康成の『古都』や谷崎潤一郎の『細雪』を思い出しながら、嵯峨野の美しい竹藪をみんなで散策しました。源氏物語の「賢木」の巻の作品舞台であった野々宮神社に辿り着き、斎宮として伊勢に行かれる御息所の姫君と源氏の君との別れを想像してみました。



落柿舎にて

次に、落柿舎に立ち寄り、向井去来の「柿ぬしや木ずえは近きあらし山」などの句を鑑賞しながら、松尾芭蕉の「嵯峨日記」の拠点となった落柿舎の風情あふれる史跡を散策しました。この地で芭蕉と去来がどのような会話を交わしたのか、どんな生活を送ったのか、想像を膨らませながら、思いに浸る大変思い出深い一時でした。

落柿舎を出発し、藤原定家の『百人一首』の作品選定の舞台であったと言われている常寂光寺に足を運びました。京都の地域文学会地元メンバーは日研生に定家ゆかりの史跡

案内してくれました。



常寂光寺にて

今回の企画では当初、祇王寺を見学し、「平家物語」の祇王の悲しい恋物語の作品舞台を見学する予定でしたが、時間が不足しましたので、祇王寺を諦めて京都大学に戻りました。

京都大学では三つのグループに分かれて、それぞれが発見してきたことについて報告会を行いました。教育を手掛ける側からすると、学生の着眼は意外なもので、学生達が見てきた作品舞台は新鮮で、興味深いものでした。



京大での報告会

時間にも制約があり、合同で研修できた史跡は限られましたが、今回の合同研修は学生達にとって日本文学に馴染む有意義な機会となったようです。実際の作品の舞台を見学することによって様々な時代に書かれた作品に対して親しみを感じ、関心を深めることが出来たのではないかと考えられます。

更に、京都を散策しながら、学生達は情報交換をし、交流を深めました。今回の合同研修は異なった大学で学ぶ学生達にとって、お互いに知的刺激を与え合う良き機会となったことと思います。

しかしながら、より深まった研修内容にするためには、十分な事前学習が必要であること、更には合同で学び合う十分な研修時間の確保が必要であることなどといった課題も残りました。



石山寺見学

金沢の学生達は帰路の途中で石山寺にも立ち寄り、紫式部が実際に源氏物語を執筆した所なども見学しました。

異なる大学で研修を受ける日研究生は日本を深く学びたいという共通の関心を有しています。日研究生同士がお互いに刺激し合い、情報交換を行う場を作ることは大変有意義なことであると思いました。その上、日研究生を受け入れている大学間で教育リソースを共有することにより、一層充実した内容の臨場感のある教育が実現可能になると思われます。無論、まずそれぞれの大学は地域教育リソースを最大限に生かした特色のあるプログラムを編成することが大前提であることは言うまでもありません。

日本語・日本文化研修プログラム担当

パリハワダナ ルチラ

大学院予備教育（日本語研修コース）

VOTAK 活動紹介

日本語研修コースは、1995（平成7）年後期に第1期を開始し、2008（平成20）年後期で27期になります。研究留学生と教員研修留学生に対し、来日直後の半年を使って集中的に日本語訓練を行います。2004（平成16）年からは、総合日本語コースのAAクラスと位置づけられ、対象学生の幅が広がりました。短期留学生（KUSEP等）や、私費留学生もこのコースに受け入れています。



授業内容は、午前中は一般日本語、午後は専門への橋渡しとしての口頭発表プロジェクト、コンピュータ、作文、ビデオを使った会話、日本人学生との協働活動 VOTAK 等、バラエティーに富んでいます。

VOTAK (Volunteer Tutors' Association of Kanazawa University) は、この研修コースの1コマを使って、留学生と日本人学生が出会い、共に学ぶ場です。第1期から行っています。来日直後の留学生は、日本語が全くできず日本の生活習慣を知らないため、一般の日本人学生と交わりたいと思いつつも、接触の機会を自分の力で開拓するのは難しく、留学生だけで集まっています。そうして、あっという間に半年が過ぎて、結局、日本人の友達は何もない、という悲しい結果になりがちです。そんなことにならないように、学期の初めから日本人と留学生が毎週会って活動するのが VOTAK の時間です。

VOTAK は、留学生のためになることは言うまでもありませんが、継続的に参加する日本人学生の成長のために大いに役立っています。今回は、二人の学生に感想を書いてもらいました。この二人は日本語教育専攻の学生で、卒業後すぐに海外の機関に日本語教師として赴任します。VOTAK での経験が大いに役立っている証だと、私は思っています。



日本語研修コース担当 三浦香苗

VOTAK 活動から得たもの

高校生の頃から、外国の人と話してみたい！いろいろな国に行ってみたい！と考えてばかりいた私にとって、「日本語教師」という職業を知った瞬間は衝撃的なものであった。これこそ、私が望んでいた職業と合致するのではないかと。

そして、大学に入学し、地元では出会う機会が少なかった留学生と交流を多く持つようになった。「日本語教師」に一步でも近づければと思い、チューターを始めたたり、地域の日本語教室にも TA として行った。その中でも、VOTAK への参加は私が「日本語教師」へと進む上で欠かせない授業となっている。

VOTAK とは、かれこれ 3 年半の付き合いになる。この 3 年半で、今後役立つだろう多くのことを学ばせてもらった。VOTAK に参加している学習者の方はゼロ初級レベルの方が大半で、高校までで習った英語を使ってなんとか意思疎通を図ろうと思うが、思ったことが伝わらない。それでも、学習者の方は私の話を熱心に聞いてくれるし、日本人と話したい！今日習った文型を使いたい！という気持ちが伝わってくる。学習者の方の気持ちをよく知ることができたし、外国語をうまく話せないもどかしさも同時に知ることができた。

また、この VOTAK では、学習者の方の日本語が上達していく様子を、直に感じるができる。来日したばかりの頃は何も話せなかったのが、2 ヶ月を過ぎる頃には日本語のみで簡単な会話をすることができるレベルにまで上達している。毎回のクラスで驚きの連続である。

VOTAK 担当の三浦教授からも日本語教師の先輩として学ばせてもらったことが山のようにある。日本語教授法はもちろんのこと、学習者との信頼関係、何事にも興味を持つ姿勢、そして幅広い知識を持ち合わせていること、などである。目指したい先生の 1 人である。

私は、来年の夏から中国の大学で日本語教師として働き始めるが、この 4 年間で得た経験・知識が力になることは間違いない。その経験・知識とより一層の努力、そして、さらなる経験を経て、私の思い描く「日本語教師」へ一步一步近づいて行きたいと思う。



かなざわだいがくきょういくがくぶ
金沢大学教育学部

にんげんかんきょうかてい
人間環境課程

にほんご にほんぶんかきょういく
日本語・日本文化教育コース 4 年

むろやあさみ
室谷麻美

VOTAKの感動

あの感動が忘れられない。日本に来たばかり、そして日本語の知識はゼロ。英語のみがコミュニケーション手段だったVOTAK初日。そしてそれから約半年後の夏休み終盤、偶然留学生会館でそのVOTAKでの留学生に会った。もちろん、私との会話はすべて日本語。何も問題なく、彼女の言いたいことがよくわかり、そして彼女も私の言ったことを全て理解していた。…半年間でこんなに成長するなんて！彼女の初日の姿を知っているだけに、その感動は一人であった。



VOTAKは、私にとって本当に楽しい時間であった。毎週行われるVOTAKで、会うたびに進歩している学習者の様子を見るのは非常に楽しく、嬉しいものであった。もちろん楽しむだけではなく、日本語教師志望者として多くのことをこの時間を通して学ばせてもらった。第一に、当たり前のことであるが学習者は子どもと同じではないということ。彼らはまだ日本語が上手く話せないだけで、実際は非常に優秀な人たちなのである。初めのうちは簡単なことしか話せなくても、日本語のレベルが上がるにつれ、話す内容はどんどん幅が広がり、深くなる。何週かたった後の自分の国についての発表では、彼らから今まで知らなかった多くの事を学ぶことができた。また、内容だけでなくそのスライドの見せ方も非常に上手く、彼らの優秀さを実感せずにはいられなかった。そして第二に学んだことは、いかに学習者の日本語に対する抵抗意識を減らし、自信をつけさせるか、ということである。そのためには、学習者の言おうとしていることを理解すること、そして学習者にも自分が言いたいことを理解してもらうことが重要である。授業で学んだことがVOTAKの活動の中で活着していると学習者自身が感じれば、それが自信や動機付けにつながる。そのために、彼らがどのように日本語を勉強しているかを把握し、教科書の内容をきちんと知っておくことが、私にとって大事なことだと感じた。



VOTAKを通じ、本当に素晴らしい出会いに恵まれた。これからも積極的に参加し、学習者の日本語学習のサポートをしていきたい。そして学習者と互いに多くのことを学び、発信し合うことが出来れば、と思う。

教育学部 日本語・日本文化教育コース4年
仁谷 沙耶香



総合日本語コース

日本語個別指導開設！

2008年前期から、定年退職された非常勤講師の先生による日本語個別指導を始めました。週2回、ボランティアで教えてくださいます。

初めての試みだった先学期は、不定期の学生の他に、3人の学生が毎週定期的に指導を受け、それぞれ大きな成果を挙げました。他の学生と一緒に日本語クラスでは受けられない「自分のためだけの指導」が受けられます。日本語を上達させたい留学生の皆さん、ぜひ利用してください！



★ 時間：火・木（1：00～4：00） ※10月28日（火）：休み

場所：総合教育1号館（総合教育南棟） 3階 319

講師：早川幸子先生（もと留学生センター 非常勤講師）

★ たとえばこんな時、教えてもらえます！

- ・発音が悪いと言われたが、どうしたらよくなるのかわからない。
- ・漢字が覚えられない。どうしたらいいだろう？
- ・週3回の日本語クラスのうち、1回が専門のゼミと重なっていて出られない。その1回の勉強を自分一人だけするのは大変だ。
- ・日本語クラスで、わからないことがあった。質問して説明してもらったが、もっと詳しい説明が聞きたい。
- ・作文を返してもらった。先生にたくさん直されているが、どうしてそのように直さなければならないのか、わからない。

★ とにかく一度、相談に行ってみましょう！

★ 講師の早川先生からのメッセージ

今年3月で非常勤講師を退職しましたが、その後も、留学生の皆さんの日本語学習のお手伝いできて、とてもうれしく思っています。どんな小さな問題でも、気軽に相談に来ててください。特に用がなくても、おしゃべりがしたいという学生さんも歓迎です。皆さんの来訪を毎週火曜日と木曜日の午後、319で待っています。（来年1月からは教室が312に変更されます。）

医学部でも日本語が受けられます！

留学生センターの日本語プログラムは角間だけではありません。実は宝町キャンパスでも行っています。

2005年秋に工学部が角間キャンパスに移ってから、医学部の留学生が日本語の授業を受けるのが難しくなりましたが、医学部の留学生からの強い要望を受けて、2006年の春学期から医学部でも日本語の授業が受けられるようにしました。ただ、これまでは毎年20人以上の受講希望者があったにもかかわらず、週2回しか開講していませんでした。しかし今年（2008年）からは、国際学類の先生の協力も得ることができ、初級レベル（総合日本語コースのAおよびBレベル相当）週2回と、初中級レベル（C1レベル相当）週2回の、合計週4コマの開講が可能になりました。

医学部クラスには、次のような特長があります。

- 1) 学期始めのプレースメントテストを受けなくても授業を受けられます。
- 2) 登録期間がないので、いつからでも授業を受けられます。
- 3) 日本人の学生TAを使う授業があり、同年代の日本人との会話ができます。

できるだけたくさんの留学生に来てもらうことができるように、このようにしています。でも、時間が取れる人はできるだけ角間キャンパスの総合日本語コースを受けるようにしてください。

医学部の皆さん、ぜひこの機会を生かしてください。私達は皆さんを待っています！

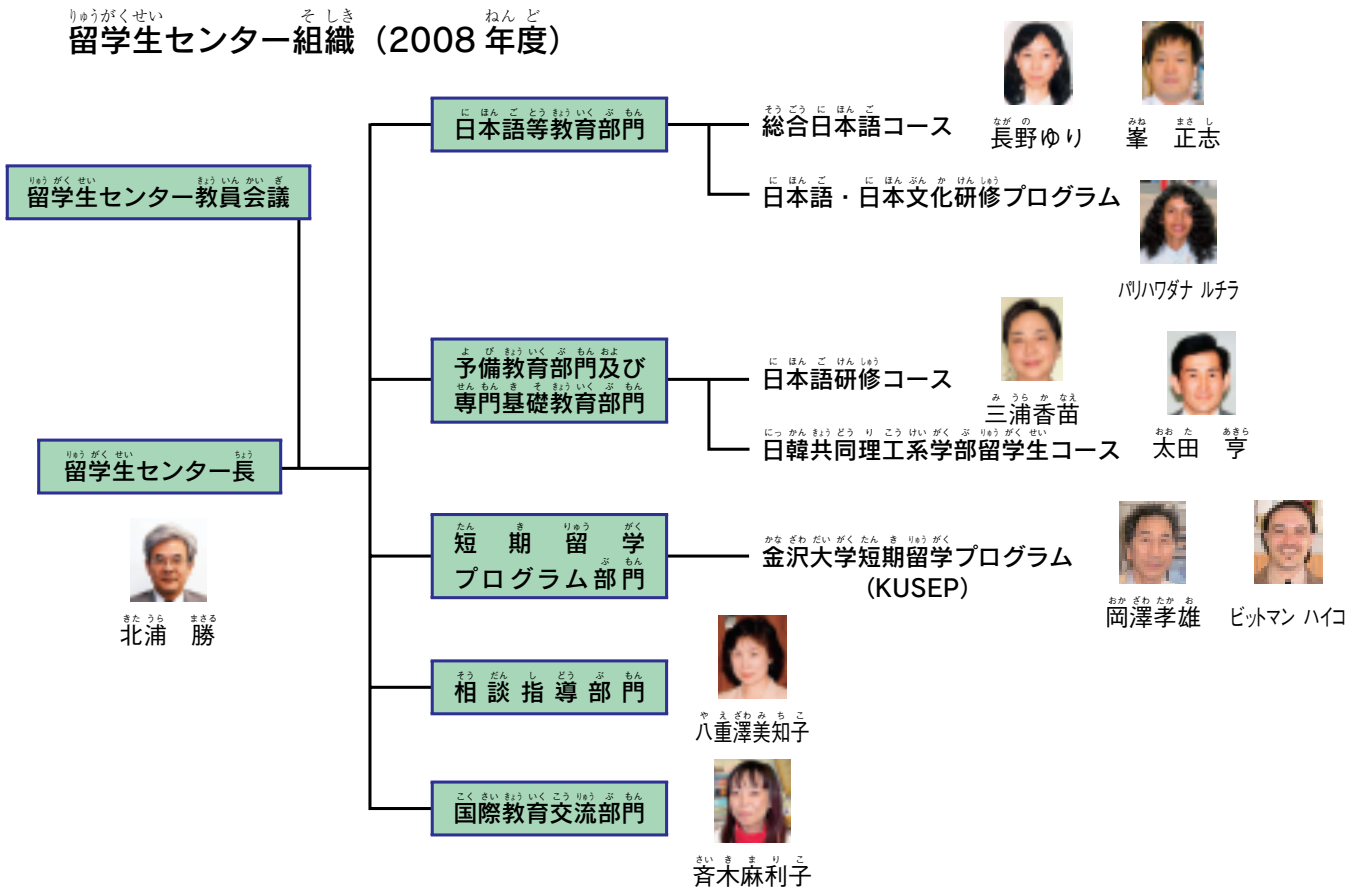
【秋学期の予定】

秋学期は以下の授業を予定しています。（留学生の受講状況により多少変更する場合もあります。）場所は、宝町キャンパスF棟総合日本語コース室です。

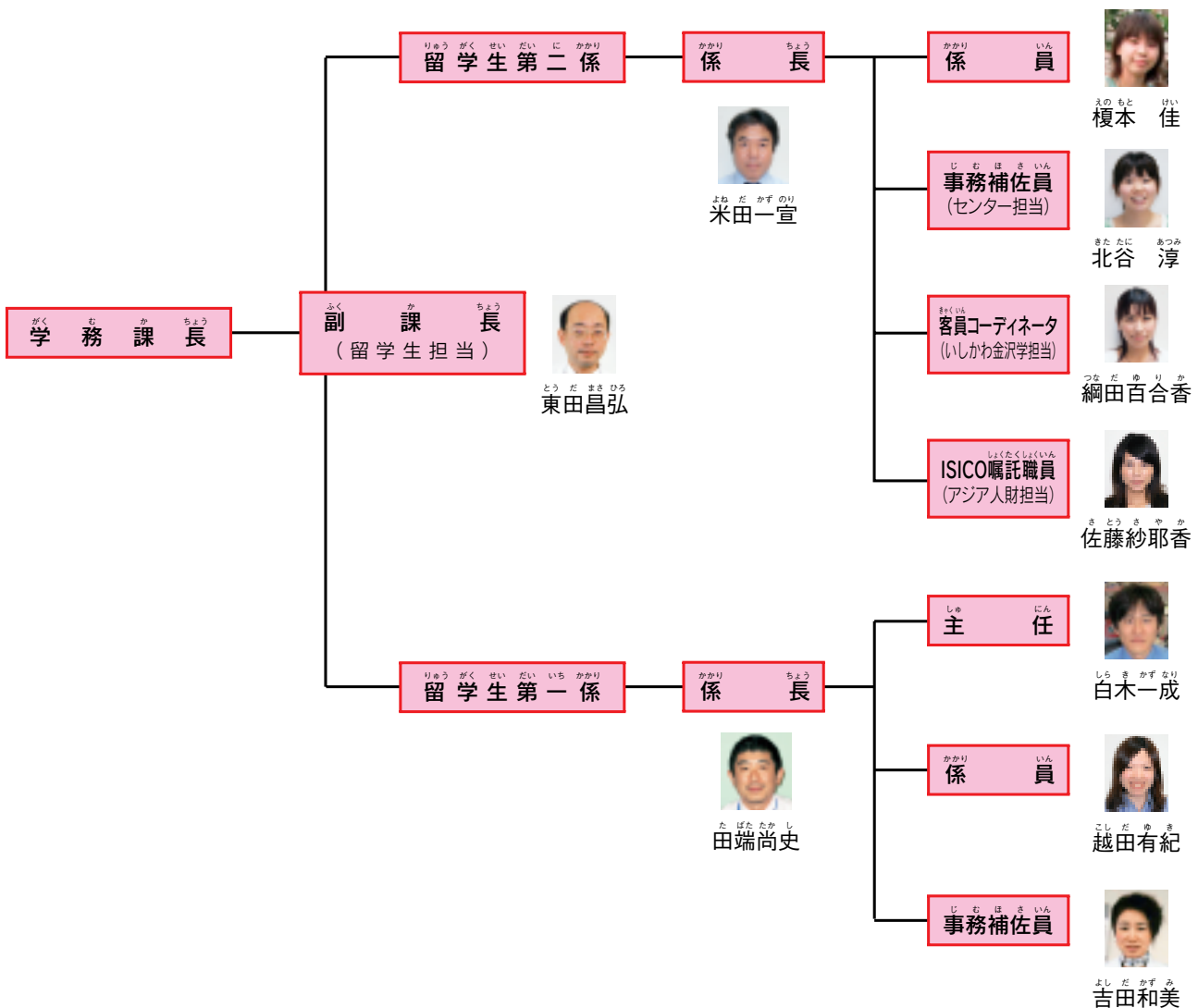
- 1) 初級クラス（火曜1限および木曜1限）
- 2) 初中級クラス（月曜1限および水曜1限）

自分のレベルがわからない留学生も、とにかく一度教室に来てください。担当教師と話して、自分に合ったクラスを見つけましょう。

留学生センター組織 (2008年度)



学務課留学生係組織 (2008年度)



りゅうがくせい

ちゅうごくごばん くわ

留学生センターのホームページに中国語版が加わりました！

留学生センターのホームページ中国語版が2008年度に開設されて、留学生センターのいろいろな情報が4つの言語で読めるようになりました。留学生にもぜひ教えてあげてください。

にほんごばん
日本語版 URL

<http://isc.ge.kanazawa-u.ac.jp>

えいごばん
英語版 URL

<http://isc.ge.kanazawa-u.ac.jp/eg/kuis.html>

かんこくごばん
韓国語版 URL

<http://isc.ge.kanazawa-u.ac.jp/kr/index.html>

ちゅうごくごばん
中国語版 URL

<http://isc.ge.kanazawa-u.ac.jp/ch/index.html>

金沢大学留学生センター
金沢大学留学生中心

Japanese | English | Chinese | Korean

- 中心概要
- 日語研修課程
- 日語/日本文化研修计划
- 総合日語課程
- 金沢大学加贈留学计划
- 日韓共同理工科本科留学生課程
- 咨询/指导部门
- 国际教育交流部门
- 授課时间表
- 学年日历
- 刊行物
- 链接
- 网页地图

時間割 >> 学年型 >> 刊行物 >>

新着情報 What's New

2008.7.4 『辅导员手册』公开了的最新版!

2008.6.25 「中国四川大地震支援街头募捐报道(2008年6月7-8日)」(金沢大学中国留学生学生友会主页刊载报道)

Google 検索 WWW 検索 isc.ge.kanazawa-u.ac.jp 検索

金沢大学留学生中心 920-1192 石川県金沢市角間町 Tel: +81-76-264-5188 E-mail: bujcc@sch.kanazawa-u.ac.jp

金沢大学留学生センターニュース 第12号

2008年11月30日発行

発行 金沢大学留学生センター

〒920-1192 金沢市角間町

TEL (076) 264-5188

FAX (076) 234-4043

ryuiku@ad.kanazawa-u.ac.jp

この冊子は、植林・森林認証取得木材使用など環境 ISO 取得工場にて作られた用紙を使用しています。